

2018年10月1日

東京電力ホールディングス株式会社

社長 小早川 智明 様

日本共産党福島県議会議員団

団 長 神山 悦子

副 団 長 阿部裕美子

副 団 長 宮川えみ子

幹 事 長 宮本しづえ

政調会長 吉田 英策

福島第一原発事故にかかる汚染水処理の隠ぺいに抗議するとともに、 「海洋放出」せずタンク保管を継続することを求める申し入れ

東京電力福島第一原発事故で敷地内のタンクにたまっている放射能汚染水の約8割に、環境中に出す場合の基準値を超える放射性物質が含まれていたことを、東京電力は29日までに、明らかにしました。

東京電力はこれまで、炉心の冷却などで発生する高濃度汚染水を、ALPS（多核種除去設備）に通すことで、トリチウム以外の62核種の放射性物質を除去できると説明してきました。現在、ALPSを通した汚染水約94万トンが第一原発の敷地内にタンク保管しており、このうち約8割の75万トンが、基準値を上回る濃度であり、一部には基準値の約2万倍の物質もあることが判明しました。

トリチウム汚染水の処理方法について、富岡、郡山、東京で公聴会が開かれてきましたが、東京電力はこうした事実を自ら公表する姿勢はありませんでした。このことは県民を愚弄するものであり、東京電力のこうした原発廃炉作業にかかわる度重なる隠ぺい体質に強く抗議するものです。トリチウム汚染水の扱いについては振り出しに戻ったと言わざるを得ません。

以下、申し入れます。

- 1、今回の汚染水処理の隠ぺいに強く抗議する。合わせて県民に真摯に謝罪すること。
- 2、約8割もの汚染水にトリチウム以外の基準値を上回る放射性物質があることを知りながら、公聴会の開催前になぜ事実を自ら公表しなかったのか、明らかにすること。合わせて、その原因および基準値超えの核種について公表し、再発防止策を明らかにすること。
- 3、汚染水の処理は「海洋放出」は認められず、タンク保管を継続すること。

以上